

事業名 CD	0106010715	農地水環境保全対策事業	
細分化した事業名		0	
事業担当課室 CD	300100	農林課	整理コート*

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり
	中項目	環境と調和した農林業の振興
	小項目	農林業生産基盤の整備
関連する個別計画等		根拠条例等
関連する事業		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	地域の共同活動により、農地や農地周辺の水利施設の保全管理を行い農村環境の向上を図る。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	農振農用地を含むエリア内で、農業従事者だけでなく地域住民、自治会、関係団体などが参加する活動組織。
これまでの改善経過	
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 <input type="checkbox"/>市 <input type="checkbox"/>委託 <input checked="" type="checkbox"/>補助金 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>活動組織に交付金を交付して、地区の農道や農業用水路の点検、施設周辺の草刈り、水路の泥上げ、また、施設の延命化を図る活動(農道・農業用水路の機能診断、軽微な補修等)を行う。</p> <p>活動組織：岩下地区資源保全会、上祖母石環境保全会、中条地域資源保全会、小田川地域農村資源・環境保全推進委員会、久保地域資源保全会、伊藤窪保全会、つぶらい環境保全会、入野地域資源保全会、青木地域資源保全会、折居資源保全会、羽根環境保全会、重久環境保全会、山寺環境保全会、竹内環境保全会、旭町久保環境保全会、湯舟環境保全会、石水農地・水・環境保全会 計17活動組織</p>
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	農振農用地の保全、遊休農地の解消や、農道・農業用排水路の補修による延命化を図った。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		19年度		20年度		21年度	
A	事業費 (千円)	4,556		5,777		6,788	
財源内訳	国庫支出金	0		0		0	
	県支出金	0		0		0	
	市債	0		0		0	
	その他	0		0		0	
	一般財源	4,556		5,777		6,788	
B	担当職員数(非常勤 職員 E) (人)	0.00	0.35	0.00	0.40	0.40	
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)	2,415		2,764		2,729	
D	総事業費(A+C) (千円)	6,971		8,541		9,517	
*参考		H21)市民1人当りの事業コスト 297 円		H21)市民1人当りの行政サービス費用 579,596 円			

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、19年度(6,901千円)、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)を使用しています。
 注3)一般財源とは使途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			19年度	20年度	21年度
活動指標	活動団体数	(実施地区数)	12	17	21
成果指標	協定農振農用地面積	(ha)	342.50	429.50	512.00
効率指標	市内協定面積率(%)	協定面積/市内の農振農用地面積 (512.0ha/2221.8ha)	13.69	19.33	23.04

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 活動組織に交付金を交付し活動を促すことによって、自分たちで農用地を保全し、農道・農業用水路を維持管理していこうとする意識の向上につながり、妥当といえる。	
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 農振農用地の保全、農道や農業用水路の補修等を行い、施設の延命化、維持管理の軽減につながっている。	
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 今までは市で行っていた補修工事等のコスト縮減につながり、緊急対応箇所早期解消につながり、効率的である。	
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成	
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input checked="" type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり	
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)	
	(1) 中長期的 地区住民で農道・農業用水路の維持管理をしていこうとする更なる意識の向上を図る。	(2) 23年度 保全活動により、遊休農地の解消を促し、農振農用地の保全に努める。
	(3) 22年度 各保全会に施設の維持管理及び農地の保全をに効率的に行うよう指導して行く。	
21年度の改善計画		
21年度の改善結果		
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 各保全会を通じ住民に農業施設の維持管理の啓発を図り、市で行う整備工事との役割を分担を考える。		
課長所見	事業予定期間がH23年度までであるが、取り組み地域の更なる推進を図り、地域住民による自主的な農道・水路等の維持管理活動と、その事業成果・効率性等を踏まえ、地域と市が協同した農業用施設等の維持管理に努めていくには必要な事業であると考えます。	